

事業所名

KOKOCHI

支援プログラム (様式)

作成日

7年

2月

20日

法人 (事業所) 理念		子どもの人権や主体性を尊重し、最善の利益を図るた10年先の未来を見据えた支援に取り組みます。											
支援方針		子どもたち一人ひとりの得意に注目し、その子の持つ可能性を最大限にするための個別化支援、合理的支援を積極的に取り組んでいきます。											
営業時間		平日	10	時	0	分から	19	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		土曜日、長期休み	9		0		17		30				
支援内容													
本人支援	健康・生活	保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。時間や空間がお子さんにわかりやすいように構造化等により生活環境を整える。(支援例) 活動場所の仕切りなど環境の調整、視覚支援(スケジュールや手順の掲示)、入退室時の持ち物の片づけや準備・忘れ物確認											
	運動・感覚	児童ひとりよりの身体の状態に合わせ、活動中に適切な姿勢保持や正しい等様々な補助的手段を活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。お子さんの運動機能や感覚の感じ方(振感・痛感)に合わせて、課題を設定します。さまざまな感覚(視覚、聴覚、触覚、固有覚、前庭覚など)を取り入れた遊び、感覚の感じ方(振感・痛感)への配慮、好ましい姿勢や道具の扱い方等の絵カードや具体的な声かけ、力や振れの視覚化など											
	認知・行動	課題プログラムの得意さ(得意)や得意な領域・得意な領域(得意)を伸ばすよう努め、それらも踏まえて児童が自ら入っている課題を通知し理解できるように支援。行動計画の作成により、児童が視覚・聴覚・触覚などを活用して物の中や色・臭いなどについて学び、認知機能の発達を促す。児童が視覚・聴覚・触覚などを活用して物の中や色・臭いなどについて学び、認知機能の発達を促す。児童が視覚・聴覚・触覚などを活用して物の中や色・臭いなどについて学び、認知機能の発達を促す。児童が視覚・聴覚・触覚などを活用して物の中や色・臭いなどについて学び、認知機能の発達を促す。											
	言語 コミュニケーション	集団活動等の機会を通じ、コミュニケーション(言語・非言語のやり取り)により、相手の意図を理解するよう支援。自分の思いや要求の相手への伝え方など場面や相手の状況に応じた適切なやりとりを促す。											
	人間関係 社会性	活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わり方の機会および環境を提供することで人間関係形成の促進を図る。ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しさや手順を徐々に理解できるように支援する。他者の気持ちや意図を理解したり、適切な行動をしたりするなど、社会に適応するために必要なソーシャルスキルの獲得を支援する。気持ちのコントロール、行動を認めて自尊心を高めるなど											
家族支援	ご家族からお子さんのご家庭での様子や心配などについてお話を伺い、ご家庭でも実践できるような環境づくりや関わり方の工夫を一緒に考えます。	移行支援	事業所の職員も児童も本人・保護者等との関係構築を重視。同じ目的の支援を継続できるように移行先にお子さんの発達やこれまでの支援経過、支援方針等に関する情報を共有し、他機関の連携も支援を行います。										
地域支援・地域連携	ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。 保育、教育、福祉、医療等の関係機関と連携し、地域の発達支援体制の充実や地域の発達支援に関する課題の改善・解決に努めます。発達に支援が必要なお子さんに関する知識について普及啓発します。	職員の質の向上	外部研修の受講や事業所内研修を実施し、職員の専門的な知識やスキル、支援の質の向上を図ります。										
主な行事等	卒業のお祝い(3月)、外食活動(8月)、外出活動(長時休み期間)												